

おかざき風景まちづくり

おかざきラウンド・テーブル★テーブル／光ビスタライン観察会



1月31日(土)、「水と緑が輝き、歴史と文化の薫る 風格あるまちを目指して」をテーマに、市民対話集会「第6回おかざきラウンド・テーブル」を開催しました。

前半は西村幸夫さんの講演と小川英明さんによる市民意識調査結果の解説、後半は市民代表者6人に西村さん、小川さんも加わり、意見交換を行いました。

また「ラウンド・テーブル終了後、景観の大切さを感じていただく」と、大樹寺から岡崎城を望む歴史的眺望(ビスタライン)を光で結ぶ照射実験を行い、ビスタラインを観察しました(翌日も開催)。

広報広聴課広聴班 23 ◆ 6028
都市計画課都市景観班 23 ◆ 6261

大樹寺総門から照射した光で、ビスタラインがくっきりと映し出された(光ビスタライン観察会)

市民意識調査結果解説

愛知産業大学大学院教授 小川 英明 さん

岡崎の景観計画と景観の在り方を議論している審議会の部会では、昨年8月、3,000人に実施した景観に関するアンケートの結果から、六つの課題を抽出しました。

【おがわ ひであき】

都市計画、建築史が専門。岡崎市総合計画審議会会長代理、岡崎市都市計画マスタープラン策定委員会委員長、岡崎市環境審議会委員

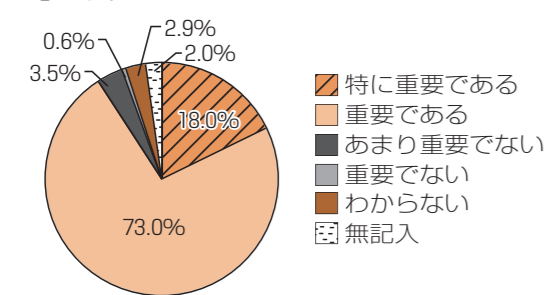


Profile

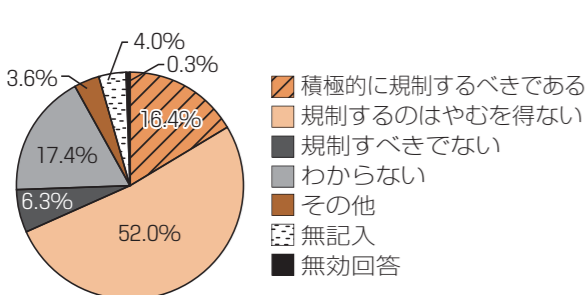
- 課題1「まちづくりに果たす景観の役割の共通認識」
多くの市民の皆さんが、景観の役割とその重要性について十分理解し、現在の岡崎市の景観に誇りと愛着をもっています。そして何とか景観をもっと良くしていきたいと考えておられます。
- 課題2「身の回りの景観への関心の向上」
岡崎を代表する景観には岡崎城が挙げられ、社寺や史跡などの歴史資産、森、湿地、溪流などの自然資産も優れた景観に挙げられています。自分たちの住む身近な街にも、普通の景観の価値のあることを考えていく必要があります。
- 課題3「水と緑、歴史と文化に係る資源の保全・活用」
開発と保全のバランスを考えながら、自然資産や歴史・文化資産については積極的に保全・活用を考えていくべきです。
- 課題4「景観に関するルールづくり」
景観を良くするために「積極的に規制する」「規制はやむを得ない」という意見が多く、景観のルールづくりの必要性が指摘されました。建築物などの色彩のルールへの注文が多くありました。
- 課題5「率先的・先導的な事業の検討」
市民の皆さんと一緒にできることから少しずつ取り組んでいき、行政・事業者と一緒に手を携えて岡崎市全体に広げていきましょう。
- 課題6「景観形成のための景観計画の策定」
岡崎の大切な景観をより良くするために、方針やルールをまとめ、どのような事業を進めていくかを、皆さんと一緒に考えていければと思っています。

市の景観に関する市民意識調査集計結果(抜粋)

○今後のまちづくりを進めるうえで「景観」は重要だと思いますか?



○景観づくりのために、必要であれば景観法に基づく規制を設けることも可能ですが、どう思いますか?



▶現在のビスタライン。大樹寺総門越しに岡崎城が見える。



◀ビスタライン上に高い建物が建った場合(合成)

す。景観を守る努力は引き算なのでなかなか実感できないのですが、そういう努力が大事なのです。

特定の風景を守るのか、風景を含む一帯を守るのか、方法は様々ですが、そこに住む人が、その風景を資産として認識して守るためには、何をやらないといけないかを考えていくことが大事です。最終的には法的にルールを掛けていかないと、なかなか守れない時代になってきているのも確かです。岡崎市のどの風景が大事で、それをこの街でどうしていくのかということも、ぜひこの機会に議論を高めていただいて、いい計画やいい仕組みづくりを進めていただきたいと思っています。

岡崎の人は、名鉄電車で来ると「矢作川を渡って岡崎城が見える」とそういうイメージを持って自分たちの街に帰ってくるのができ、本当に幸せだと思います。自分たちの街の共通のイメージを見つけることが、景観づくりの大きな一歩ですが、世界遺産になっている姫路城でさえ、新幹線ホームからの眺望を確保することに苦労しています。

みんなが共有できる大事な眺望というのは、実は計画的な意図の中で生まれてきていて、そういう風景は都市の重要な資産です。それを守る試みは先進国では数多くやってきていますし、日本でも始まっています。例えば、鹿児島や京都でも自分たちの住む街の一番大事な景色はどういう景色かというのをみんなで議論して、高さ規制などのルールを決

めました。東京の千代田区では、皇居の周りは建物を低くしましょうというルールを決めましたし、広島市では市内を流れる太田川の風景が大事だから、川に面した看板を立てないといったルールなどを決めていま



【にしむら ゆきお】
都市計画、都市保全
計画、市民主体などが
まちづくり論などを産
専門。世界文化遺産を
の価値などを評価する
国際記念物遺跡会議
(ICOMOS) 前会長

Profile

基調講演(要約)

地域らしさとは何か。

〜風景を読み解く楽しみ〜

東京大学大学院教授 西村 幸夫 さん

おかざき ラウンド★ テーブル

ファシリテーター(進行)

小川 英明さん

コメンテーター(解説)

西村 幸夫さん

パネリスト (順不同)



八丁味噌協同組合
石原 友保さん



大樹寺
野村 顕弘さん



伝馬通商店街
振興組合
中野 敏雄さん



おかざき
観光ガイドの会
今井 宏司さん



茅葺の里
「じさんじよの会」
山本 君子さん



藤川宿
まちづくり研究会
松坂 昇一さん

風景まちづくりへの 取り組みや考え

小川 皆さんの風景やまちづくりの活動についてお聞かせください。

ビスタラインの維持は 奇跡的

野村 大樹寺には多宝塔をはじめ、徳川歴代の位牌など大切な文化財があり、この管理や補修などを行っています。

風景という点、大樹寺から岡崎城を望むビスタラインがあります。これは徳川家光が祖父・家康公を思い、伽藍(二門と総門)を整備されたなど、歴史的にも重要なと言います。このビスタライン上に大きな建物が建つことなく、今でも維持されているというのは、大変奇跡的なことです。家光の思いを受け継いだ、市民の皆さん一人ひとりの協力によるものだと思います。このビスタ

旧東海道の趣に

石原 八丁味噌の伝統を守り続けていくため、2社で八丁味噌協同組合をつくり、協力して味噌蔵や木桶の維持管理、職人の育成、蔵の外壁の補修などに取り組んでいます。数年前、NHKの「純情きらり」の撮影の際に、市が蔵通りと旧東海道の舗装を黒から茶

色に変えました。それ以来、通りに旧東海道の趣が出ました。八帖町の2社は年間約30万人が訪れますが、八丁味噌だけでなく岡



八丁蔵通り(八帖町)

市民も知らない 岡崎公園の見どころ

今井 現在46人ほどで、岡崎公園を中心に来訪者のご要望に合わせた観

崎の良さも知ってもらうために、最近では観光でいらしたかたに旧東海道も併せてご案内しています。また、景観を大切にすることで、従業員も歴史ある産業を守るという心構えができるので、これからも景観を大切にしていきたいと思っています。

伝馬通り再現の取り組み



二十七曲りに点在する石像(伝馬通)

中野 昭和初期、私が子どもの頃は、伝馬通りは旧東海道の宿場の面影をほぼ残していました。しかし、戦災でその8割が焼けてしまいました。現在の風景から焼ける前の宿場を想像するのは難しいので、歴史探訪をするため、伝馬通りの旧東本陣から西本陣までの間に20基の石像と解説の立て札を置き、道を行く人に見ていただけるようにしました。

また、昭和2年に完成したモダン道路についても、シンボルである柳の木を残したり、岡崎の御影石を使ったレプリカの道標を建てたりして、モダン道路の保全に努めています。また、店舗の壁に、石で文政12(1800)年の街並みの図を彫刻してもらい、伝馬通りが岡崎の歴史のまちであると皆さんに覚えていただくよう念願しています。

「棒鼻とむらさき麦」のある 宿場町



二十七曲りを示す標柱

松坂 東海道五十三次、37番目の宿場町である藤川宿の保存活動は、戦後にバイパスが通り、松並木が倒れてきたので、これを修復しようということから始まりました。徐々に活動を展開し、平成7年3月に藤川宿まちづくり研究会が正式に発足しました。活動の根底は、もちろん文化財の保存です。でも、それだけではなくわかりませんので、「棒鼻とむらさき麦」のある宿場町というアピールをしました。芭蕉が歌に詠んだ「むらさき麦」は、一度は栽培されなくなりましたが、種を探してまた栽培を始めました。この他にも、

昔ながらの風景 茅葺屋敷

山本 茅葺の里は、築3000年の元庄屋さんの屋敷跡をそのまま残したものです。建物が傷んでいたのを、7年前に行政やボランティアの助けを得て利用できる状態になりました。じさんじよの会は地区のみならずこの茅葺の里を守ろうということとでそのときから活動を始めました。「じさんじよ」とは、ハゼ科の魚、ヨシノボリのこと、この地域での呼び名です。

茅葺屋敷の裏は、棚田や小川がある昔ながらの風景があり、棚田の田植えや稲刈り、収穫祭、バーベキューや魚つかみ、夜のジャズコンサートなど、まちの人との交流を交えて



松尾芭蕉が「ここも三河 むらさき麦のかきつばた」と詠んだ藤川宿。その東の入り口にある東棒鼻(市場町)



ラウンド・テーブルのようす

光ガイドをしています。市民の皆さんもご存じないかと思われる岡崎公園の見どころは、巽閣の築山にある御苑型灯籠です。これは、昭和天皇の御成婚を記念して作成されたもので、その中の一對を岡崎市から昭和天皇へご献上したという話があります。また、三大桜の「福島県の三春滝桜」「岐阜県根尾村の薄墨桜」「山梨県の実相寺の江戸彼岸桜」の幼木が、公園の中で見られることもあまり知られていません。岡崎には皆さんもまだ知らない風景がありますので、これらの魅力を紹介していく活動を行っています。



昭和天皇御成婚記念の灯籠(岡崎公園・巽閣内)



雪の茅葺屋敷(千万町町)

行っています。ドジョウやカワニナ、蛸も多く見ることができ環境ですので、ぜひ多くの皆さんに訪れて、心の癒やし、心のふるさとを楽しんでいただきたいと思います。

歩行者の目線を大切に

西村 歩く人が増えているということがあります。歩くという行為は立ち止まったり、ものを读んだりできるので、この歩く目線を大事にしていきたいですね。戦災で伝馬通りも昔と変わってしまったというお話がありました。歩く人を大切にすることがある、例えば昔の写真で以前はこうだったなど、いろいろな情報を出し方を考えていくと、まちの風景の現状や、やらなければならぬ課題が明確になるのではないかと思います。



「むらさき麦」は5~6月、紫に色付きます

風格あるまちを
目指して

小川 次に今後の岡崎らしい風景づくり、風格あるまちづくりについてご意見をいただきます。

野村 キーポイントは温故知新

野村 風景まちづくりのキーポイントは「温故知新」だと考えています。昔の風景を生かして、新しいものにしていく。例えば、二十七曲りの伝馬通りや八丁味噌蔵並みの整備や、大樹寺前の道路の石畳などで

まだ知らない岡崎の文化財を、散歩など楽しみながら自分たちで見つけていく。そういった活動をするのが、ピスタラインをはじめ、公共の財産をみんなで守っていく「岡崎



光ピスタラインに合わせてライトアップした大樹寺三門

市民の気質」をより培っていくのではないのでしょうか。

石原 地域に残る景観を線で結ぶ

石原 今日様々な地域の話聞いて、やはり岡崎というのは昔から歴史のあるまちなので、地区の至る所に素晴らしい場所がたくさん残っているのだということに改めて思いました。更に、そんな場所が点と点ではなくて、できれば線で結ばれたら相乗的に魅力がでるのではないかなと感じました。

また、市民の皆さんには、地域の岡崎らしい風景のある場所にぜひ行っていただいで、その場所をいろんな人に自慢してほしいなと思います。自慢することで、その地域に愛着もわいてくると思います。

今井 残したい石都・岡崎の風景

今井 岡崎市の風景として残したいのは、石の都・岡崎です。市内には多くの常夜燈があります。江戸時代、伝馬界隈が栄え、町衆・旦那衆が秋葉講をお参りしながら、浄財を集め、陸の灯台としての常夜燈が街角に建ちました。残っているものには大変珍しかったり、立派なものがあったりするので、こういったものを大事にしていくべきです。また、近年いろいろと、まちの名前が簡素化されていますが、歴史ある町名など

んで、盛り上げることが大切だと思います。プロに頼んで一時的な成果が上がっても、これは長続きしないだろうと思います。

松坂 住む人と来る人、双方の声を把握

松坂 まちづくりでは「棒鼻とむらさき麦」のようなメインを決めるのは、良い手法だと思っています。観光ガイドをしていると、大体皆さん宿場町だから古い家並みが多いと思ってしまうのですが、昭和40年ごろから新しい家にどんどん建て変わって、古い面影が少なくなっていることは悩みです。住む人が、古い家より住みやすい新しい家を建てたいという気持ちと、歴史探訪に訪れる人が昔ながらの家並みを見たいという気持ちの両方が分かるので、難しい問題だと感じています。原点に立ち返り、住む人と来る人が何を

求めているのか、しっかりと把握し合せて今後の方針を考えていく必要があると思います。

山本 地元の資源は無量大

山本 「岡崎の奥座敷」としていつまでも変わらぬ心のふるさと、田舎の原風景の景色や蛭や赤トンボの舞う野山、アマゴの泳ぐきれいな川、お年寄りの知恵というものをこれからも伝えて残していきたいです。恐らく高齢化率は岡崎一の地域ですが、お年寄りがとても元気で「生涯現役集落」と呼びたい場所です。何げないものでも、地元の資源は無量大と感じ、地域を守り、元気にしようと頑張っていくことが重要ではないでしょうか。額田地区では、残念ながら小学校が来年統合されますが、千万町小学校の跡地利用の案として、きれいな星空を楽しめる施設などを考えて、自然あふれる山里をもっと多くの人に知っていただければいいなと思います。

西村 大切なのは、風景を伝え、賛同していただくこと

西村 今日の話を、様々な岡崎らしい風景資産が見えてきたと感じます。一方で、埋もれてしまっているものも多いかと思えますので、これらにも一度光を当て、上手に生かしていくことで地域の魅力はもっと増えるのではないかと感じました。

を変えないということも地域を大切にする事だと思えます。そういうことも頭に入れ、「また来るね」と言われるような案内をしていきたいです。



観光客を案内するおかざき観光ガイド

中野 市民の取り組みが大切

中野 他の地域から客観的に見た岡崎は、まだ知名度が低いと感じています。しかし、岡崎は全国的に見ても温暖な気候で地形も変化に富み、とても住みよいまちであるということもよく耳にします。また、立地上歴史にかかわることも多いため、「住みよいまち、歴史のまち岡崎」としてPRすることができているのではないのでしょうか。特に「住みよいまち」というのは今後、力を入れてはどうかと考えています。まちづくりというのは岡崎の人が真剣に取り組

まちづくりというのは、そこにある風景のいわれや物語を人に伝え、その面白さに多くの人が賛同してくれるというのがとても大事だと思います。岡崎でも、このような取り組み方を風景まちづくりのヒントとしてはいかがでしょうか。

また、藤川宿で古い建物の悩みのお話がありましたが、現在は古い建物でも快適に住む工夫がはじめています。今後、このような情報や技術もちゃんと地元へ上げていくということも大事ではないかと思っています。

小川 ありがとうございます。たくさん資源を持った岡崎市に、岡崎らしい新しいストーリーをつくる後世に伝えていき、子どもや孫の代にも誇れるようなまちづくりをしていきたいと思います。その取り組みを市民や行政を含めた皆さんが手を携えてやっていく、今日はその第一歩になったかと思っています。

貴重なご意見
ありがとうございました
岡崎市長 柴田 紘一
皆さんが熱い思いで岡崎のまちを考えていただいていること、また、古い資産を大切にしていかなければいけないということを、改めて感じました。この景観に対する思いを、条例の制定ということも含めながら、市民の皆さんと一緒に、できることから一つずつ進めていきたいと思っています。

光ピスタライン
観察会
1月31日(土)・2月1日(日)



大樹寺三門から、中央に総門と光ピスタラインが見えます。(コンテスト優秀賞) 高橋敏郎さん撮影



大樹寺総門前。多くの皆さんが光に照らし出された岡崎城を眺めていました。(コンテスト優秀賞) 板倉泰弘さん撮影



岡崎城上空約450mのセーナ機から、写真上部の大樹寺から下方に伸びる光ピスタラインが写っています。(コンテスト最優秀賞) 大山利治さん撮影



りふら沿いの伊賀川から、写真左から、りふら上空にかけてつづらと照射した光が見えました。



上六名町から、照射した光によつて、岡崎城に後光が差し込んでいるように見えました。

